

本日はご多忙のところ
大辻理紀の新十両昇進祝賀会にご臨席賜り
誠にありがとうございます

高田川部屋を継承し十六年
このたび五人目の関取を輩出することが叶いましたのも
ひとえに皆様方のご支援・ご厚情の賜物と深く感謝申し上げます

相撲道は人間形成を重んじる道です
私自身まだまだ道半ばではありませんが
今後とも皆様のご指導・ご鞭撻を賜りながら
高田川部屋の名に恥じぬ力士の育成に精進して参る所存です

大辻も皆様のご期待に応えるべく日々稽古に励んでおります
さらなる躍進を遂げられるよう共に励んで参りますので
変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます

高田川 勝巳

本日は新十両昇進祝賀会にご臨席賜り
誠にありがとうございます
日頃より温かいご声援をくださる皆様をはじめ
日々ご指導・ご支援を賜っております皆様方に
心より御礼申し上げます

幼き日に高田川部屋の稽古場を訪れ
夢を志へと変えたあの日の決意が
ようやく一つの形となりました

私が相撲道において目指すべき手本は
師匠である高田川勝巳親方です

この身を預け 心・技・体のすべてを鍛え抜き
皆様のご期待にお応えできるよう一層精進して参る所存です

これからも変わらぬご指導・ご支援を賜りますようお願い
何卒よろしくお願ひ申し上げます

大辻 理紀



大辻 理紀
本名:大辻 理紀
生年月日:平成15年10月6日
血液型:O
出身地:兵庫県加古川市
初土俵:平成31年3月場所
身長:181cm
体重:142kg
得意技:突き・押し

勝敗表

場所	初日	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	地位	初土俵以来成績	身長/体重/年齢	備考
平成31年/令和元年	3月1日															新弟子		179cm/130kg/15歳	新弟子検査・合格 初土俵/一番出世
	3月場所															東/序ノ口7	4勝 3敗		
	5月場所	-	○	●	-	○	●	-	○	-	○	-	●	-	-	東/序二段83	4勝 3敗		肩の手術休場
	7月場所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	東/序ノ口28	5勝 3敗		肩の手術休場
	9月場所	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	東/序ノ口25	11勝 4敗	179cm/130kg/16歳	
	11月場所	□	-	○	-	○	-	○	●	-	○	-	○	-	-	東/序二段49	17勝 5敗		
令和2年	1月場所	-	○	○	-	○	○	-	○	-	○	-	●	-	-	東/三段目83	22勝 7敗		コロナのため無観客
	3月場所	-	○	●	-	○	○	-	○	-	○	-	○	-	-	東/三段目30	32勝 11敗		コロナ・開催中止
	5月場所	-	○	○	-	○	○	-	○	-	○	-	○	-	-	西/幕下48	35勝 15敗	180cm/129kg/17歳	
	7月場所	-	○	●	-	○	○	-	○	●	-	-	○	-	●	西/三段目50	26勝 10敗		
	9月場所	-	○	○	-	○	○	-	○	●	-	-	○	-	-	西/三段目30	32勝 11敗		
	11月場所	-	○	○	-	○	○	-	○	●	-	-	○	-	-	西/幕下48	35勝 15敗	180cm/129kg/17歳	
令和3年	1月場所	○	-	○	●	-	○	○	○	○	○	-	○	-	○	東/幕下59	40勝 17敗		
	3月場所	-	○	○	●	-	○	○	○	○	○	-	○	-	-	西/幕下35	44勝 20敗		
	5月場所	-	○	○	●	-	○	○	○	○	○	-	○	-	-	東/幕下25	48勝 23敗		
	7月場所	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	○	東/幕下18	52勝 26敗		
	9月場所	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	東/幕下14	56勝 29敗		
	11月場所	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	西/幕下8	57勝 35敗	180cm/135kg/18歳	
令和4年	1月場所	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	○	東/幕下26	61勝 38敗		
	3月場所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	西/幕下18	64勝 40敗		膝の怪我途中休場
	5月場所	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	東/幕下23	68勝 43敗		
	7月場所	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	東/幕下18	71勝 47敗		
	9月場所	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	西/幕下28	75勝 50敗		
	11月場所	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	東/幕下24	81勝 51敗	180cm/137kg/19歳	
令和5年	1月場所	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	東/幕下10	83勝 56敗		
	3月場所	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	西/幕下21	87勝 59敗		
	5月場所	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	東/幕下18	92勝 61敗		
	7月場所	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	東/幕下9	95勝 65敗		
	9月場所	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	東/幕下17	100勝 67敗		
	11月場所	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	西/幕下5	103勝 71敗	180cm/140kg/20歳	
令和6年	1月場所	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	東/幕下9	106勝 75敗		
	3月場所	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	西/幕下15	111勝 77敗		
	5月場所	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	東/幕下7	116勝 79敗		
	7月場所	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	東/幕下4	119勝 83敗		
	9月場所	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	東/幕下8	122勝 87敗		
	11月場所	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	東/幕下14	127勝 89敗	181cm/142kg/21歳	
令和7年	1月場所	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-	-	西/幕下5	132勝 91敗		



大辻——十両への道程——

平成十五(2003)年十月六日、大辻理紀(りき)は兵庫県加古川市にて、父・利紀、母・真理子の次男として生を受けた。しかし、その誕生を前に父母は不安があった。母が妊娠中毒症を患い、母子ともに危険を伴う可能性があることと診断されたからだ。父母はこれまでの人生を振り返り、家族の在り方を考えた末に、出産という決断を下した。

理紀には十歳年上の姉と七歳年上の兄がいた。二人は「加古川少年柔道サークル」に通っており、幼少期の理紀も、母の送迎に同行する中で、自然と柔道に触れるようになった。幼稚園に入園すると、姫路市の「将祥柔道館」に入門。さらに「加古川体操クラブ」にも所属し、幼い頃から身体を鍛える環境に身を置いた。

小学一年生の学年末、理紀は初めて柔道の試合に出場した。対戦相手は同年代の女の子だった。だが、強烈な足払いを受け敗北。「足は痛いし、悔しくて大泣きしました」と理紀は振り返る。その数ヶ月後、小学二年生になった理紀は、新たな挑戦への歩を進める。兄が通っていたことをきっかけに、高砂市の「高砂相撲教室」の門を叩いたのだ。

教室の指導者は、理紀に廻しを締めさせ、相撲を体験させた。すると、理紀はその場にいた小学生全員を相手に勝利を収めた。柔道の敗北に意気消沈していた心は、相撲の魅力に触れたことと重なり、五年生では全国ベスト8に入る活躍を見た。

そして同時期、運命の糸が手練り寄せられる。大相撲三月場所の開催に合わせ、大阪に滞在する高田川部屋の稽古場を訪れたのだ。実は、母はアムレスリング競技に取り組んでおり、理紀も母に倣い練習や大会に参加していた。その競技会を通して知り合った人物の紹介により、三月場所の際には高田川部屋の稽古場へ足を運ぶようになった。

「まず、びんつけ油やちゃんこの香りに圧倒されました。まさに別世界、ただただ怖かった。見学した稽古の厳しさにも驚かされたが、プロを目指すならこういう環境に身を置かなければならない、子どもながらに決意しました」と理紀は語る。

小学校卒業後、私立報徳学園に進学。高校相撲部と共に稽古できる環境が決めた。報徳学園時代は、中学三年生のときに個人戦で全国準優勝、団体戦で三位の成績を収めた。卒業と同時に念願の高田川部屋に正式入門を果たした。

入門直後、基礎練習のレベル差に衝撃を受けました。二日目の朝には、まともには立ち上がれないほどでした」と理紀は述懐する。

平成三十一年に初土俵を踏むと、順調に番付を上げていった。しかし、令和四年三月場所所で右膝前十字靭帯を断裂。停滞を余儀なくされ、「辞めようかと悩んだこともあった。だが、理紀は気持ちを切り替え、親方の指導を積極的に仰ぐようになる。そして、自身の持ち味であるスピードを生かした取り口にさらなる磨きかけた。

令和七年一月場所、西幕下五枚目で迎えた千秋楽。十両昇進がかかる大一番で五勝目を挙げた直後、理紀は人目もはばからず涙を流した。

「入門してから今日までの自分の姿が脳裏をよぎりました。間違っていないかと『報われた』、そんな思いが溢れました」と理紀は明かす。

今後の目標を問うと、即座に「横綱」と答えた。だが、それが理紀にとつての最終目標ではないらしい。

「口にしたことはありませんが、私は高田川親方のような人間になりたいのです。弟子には時に厳しく叱り、時に優しく接し、良いことは良いと褒める。後援会の皆様との接し方も、本当に素晴らしいと感じています。遠い目標ですが、相撲道を究めることで、いつかの背中に少しでも近づきたいと思っています。」

(文中敬称略)